新生児ビリルビン血症に対する光療法 phenobarbital併用療法の児に与える影響について
― 6才児のアンケート調査から ―

富山県立中央病院産婦人科
館　野　政　也

はじめに

前回，我々は新生児高ビ血症に対して光療法およびフェノバルビタール併用の児に与える影響について3才児についてアンケート調査を行ない，3才の時点においては，これらの治療法が運動機能および知能面に対して影響のないことを報告したが，今回は6才の時点においてはどうかという点についてアンケート調査を実施したので以下，これらの成績について述べる。

調査対象

調査対象は昭和53年1月1日より，同年12月31日までに当院で出生した症例で，妊娠37週以降の成熟新生児で，アプガースコア8点以上の症例をえらんで調査した。なお，我々は最近，高ビ血症に対してはフェノバルビタールを使用していないが，その当時の治療法は光療法としては光源を20ｗ4本（B・W）をインキュベーター直上より原則として72時間（3500～5000ルックス）照射

表1　発育状況等アンケート調査

下記の質問について記入あるいは○印にてお答え下さい。

A　あなたのお子さんについてKの質問にお答え下さい。

1. 出生年月日　　年　月　日生　性別　男児　女児
2. 出生時体重　　．　g　在胎週数　　週
3. 出産時の母の年令　　才　何人目のお子さんですか　　人目
4. あなたのお子さんは、黄疸の治療を受けましたか。
　（はい。　いいえ。　わからない。）

B　満6才頃についてお答え下さい。

1. ぶらんこに立ちのりして、自分で高くこぎますか。
　はい。（　才　か月頃から）・いいえ。
2. おとなの手をかりずに、一人で洋服の脱ぎ着をしますか。
　はい。（　才　か月頃から）・いいえ。
3. 自分の使った物の後片づけをしますか。
　はい。（　才　か月頃から）・いいえ。
4. 自分の右・左が、わかりますか。
　はい。（　才　か月頃から）・いいえ。
5. ひらがなの自分の名前を読んだり書いたりしますか。
　はい。（　才　か月頃から）・いいえ。
6. 約束やルールを守って遊べますか。
　はい。（　才　か月頃から）・いいえ。
7. 6才日曲（乳歯列のおくにはえる永久歯　母子健康手帳の8ページ参照）は、はえましたか。
　はい。（　才　か月頃から）・いいえ。
8. 最近、何か病気をしましたか。
　はい。（いつごろ　どんな病気　）・いいえ。
9. 眼の病気及び異常があるといわれたことがありますか。
　はい。（　）・いいえ。
10. その他の病気はありますか。
　はい。（　）
11. 視力
　右（　）　左（　）
12. 聴力に異常がありますか。
　はい。（　）・いいえ。
13. 今迄に、かかった主な病気
　（　）
14. 育児の上で、心配なこと、記録として残したいこと、感想などを自由に書いて下さい。
15. 3ヵ月頃、股関節脱臼の検診を受けられたとき、異常があるといわれましたか。
　はい。（　）・いいえ。

はい、の場合どのような治療を受けたか。又、何か月で完治したか記入して下さい。

御協力ありがとうございました。

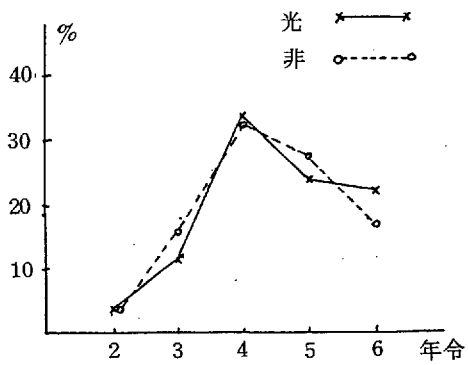
し，フェノバルビタールを1回1ml（4mg），1日2回3日間経口投与した。今回の調査対象は675例であったが，アンケート調査の中で回収できたのは246例で回収率は36.4％であった。治療群および非治療群の内訳は夫々130例および116例であった。また，今回の調査に使用したアンケート用紙は表1の如くで母子健康手帳を参考として作製し，アンケートの回収は通信によって行なった。

結　　果

運動機能の検査としてブランコに自由に乗れるようになったのは，いつ頃からかについてまると表2の如く，可能になった年令のピークは夫々4才で，治療群および非治療群との間に差はみられなかった。

表2.　ブランコに立ちのりして高くこげるになったのはいつ頃からか

( )%	2才	3才	4才	5才	6才	いいえ
光療法（130例）	4 (3.1)	15 (11.5)	43 (33.1)	31 (23.8)	29 (23.3)	8 (6.2)
非光療群（116例）	4 (3.4)	18 (15.5)	36 (31.0)	32 (27.6)	20 (17.2)	7 (6.0)



自分で遊びの後片づけができるようになったのピークは夫々3才，ルールを守って遊ぶことができるようになったのは夫々4～5才で両群間に差は認められなかった。また1人で洋服を着たり，脱いだりできた年令のピークも夫々3才であった。次に自分の左右がわかるようになったのは何才頃だったかについてみると表3の如くやはり治療群，非治療群との間に差は認められなかった。次に自分の名前をひらがなで読み書きができるようになったのは何才頃だったかについてみると表4の如くで治療群のピークは4才，非治療のピークは5才で治療群が劣っているという成績は得られなかった。

表3.　自分の左右がわかった

( )%	2才	3才	4才	5才	6才	いいえ
光療群（130例）	7 (5.4)	26 (20.0)	34 (26.2)	28 (21.5)	33 (25.4)	2 (1.5)
非光療群（116例）	2 (1.7)	21 (18.1)	28 (24.1)	32 (27.6)	30 (25.9)	3 (2.6)

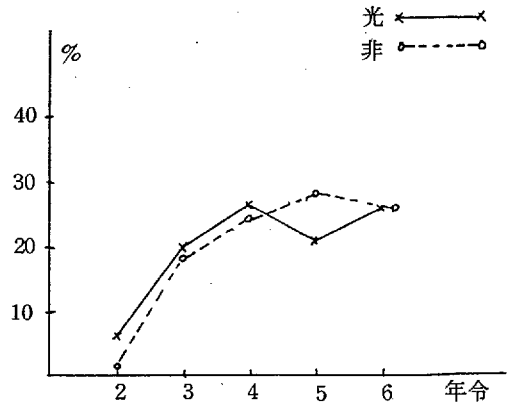
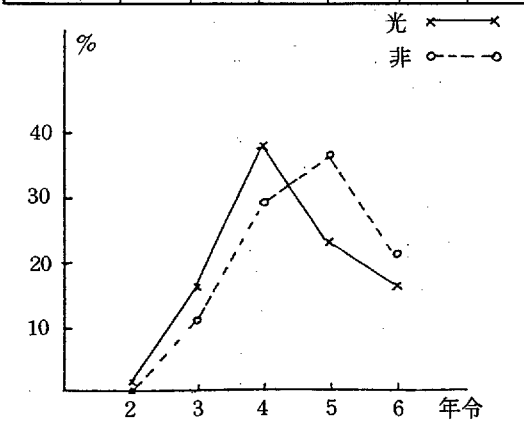


表4.　ひらがなで自分の名前の読み書きができた

( )%	2才	3才	4才	5才	6才	いいえ
光療群（130例）	2 (1.5)	21 (10.2)	49 (37.7)	36 (27.7)	21 (16.2)	1 (0.8)
非光療群（116例）	0 (0)	13 (11.2)	34 (29.3)	42 (36.2)	25 (21.6)	2 (1.7)



次に臼歯が生えた時期についても両群間に差が

なく，病気についての調査でも皮膚炎など種々の病気，眼病，視力および聴力異常の出現頻度も両群間に殆んど差が認められなかった。

結　　論

我々の行なった高ビ血症に対する光療法およびフェノバルビタール併用療法は6才の時点におけるアンケート調査からもわかるように3才の時点における成績と同様，運動や知能面に対する悪影響は全く認められなかった。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに

前回,我々は新生児高ビ血症に対して光療法およびフェノバルビタール併用の児に与える影響について 3 才児についてアンケート調査を行ない,3 才の時点においては,これらの治療法が運動機能および知能面に対して影響のないことを報告したが,今回は 6 才の時点においてはどうかという点についてアンケート調査を実施したので以下,これらの成績について述べる。